



平成22年12月28日

## 積雪・凍結路面での転倒にご注意！

～1・2月は特に滑りやすく 3人に1人が入院を要するケガ～

東京消防庁管内において、平成17年4月から平成22年10月末までに、積雪や凍結した路面で転倒するなどして663人が医療機関に救急搬送されています。

これからの季節は、気温の低下や、降雪等により路面が凍結しやすい状況となります。積雪や凍結による転倒は、3人に1人が入院を要する中等症以上のケガとなっていることから、東京消防庁では十分に注意するよう呼びかけています。

- 1 月別では、1月と2月の発生が約93%を占めている。
- 2 半数以上が早朝から正午までの時間帯で発生している。
- 3 年齢層別では、50歳以上の年代が約76%を占めている。
- 4 転倒した人の3人に1人が入院を要する中等症以上のケガとなっている。
- 5 降雪時及びその後数日の間に、事故が集中している。

詳細は、別添え資料をご覧ください。

東京消防庁では、積雪・凍結路面に係る救急事故の発生状況を注視し、注意を促すなど、都民生活の安全確保に努めてまいります。

問い合わせ先

東京消防庁 代 電話 3212 - 2111  
生活安全課生活安全係 内線 4206  
広報課報道係 内線 2345～2349

## 積雪や凍結路面に係る救急事故の発生状況

### 1 月別の発生状況（平成17年4月から平成22年10月まで）

月別では、月の平均気温が最も低くなる1月と2月に多く発生（618人、93.2%）している。（図1参照）

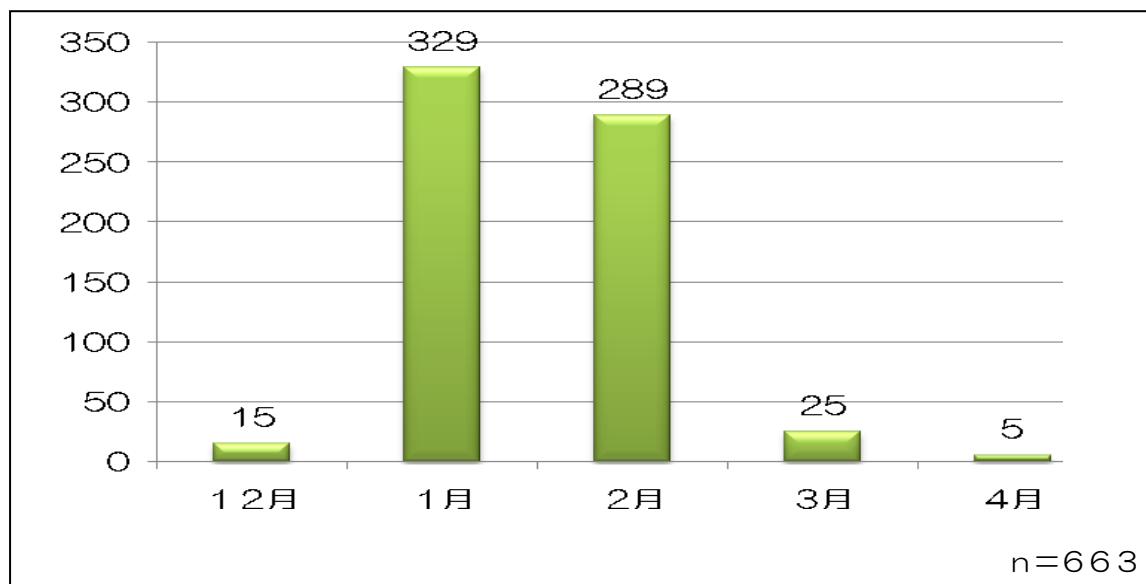


図1 月別の発生状況

### 2 時間帯別の発生状況

早朝から正午までの時間帯にかけて多く発生（363人、54.8%）している。（図2参照）

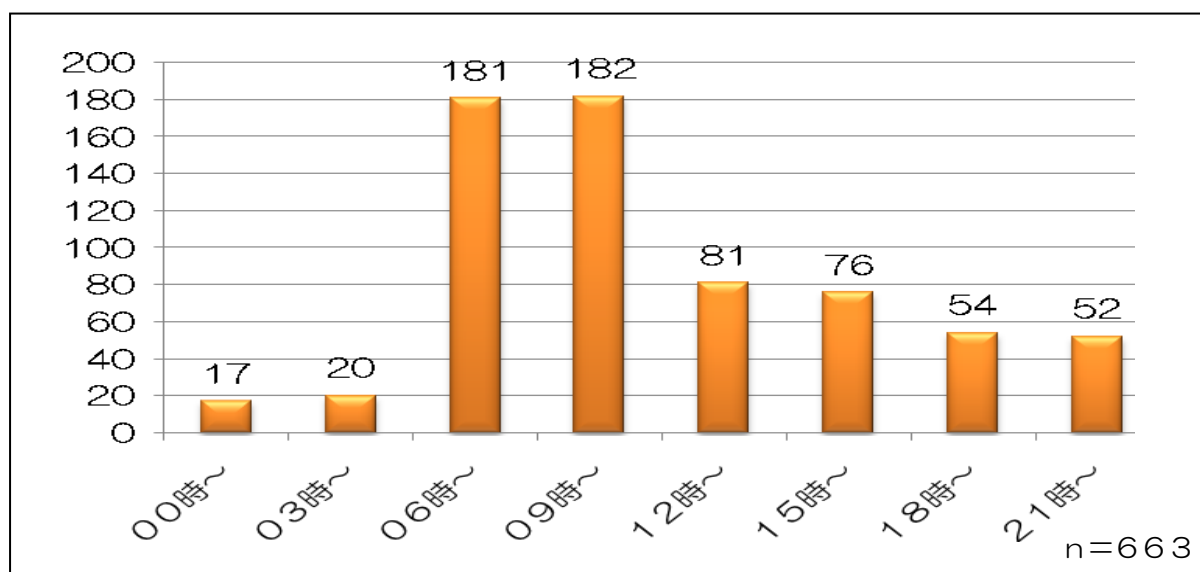


図2 時間帯別の発生状況

### 3 年齢層別負傷者程度別の発生状況

年齢層別に見ると、50歳代から70歳代にかけて多く発生（425人、64.1%）している。また、60歳代以上で転倒した場合は、約4割が中等症以上となっている。（図3参照）

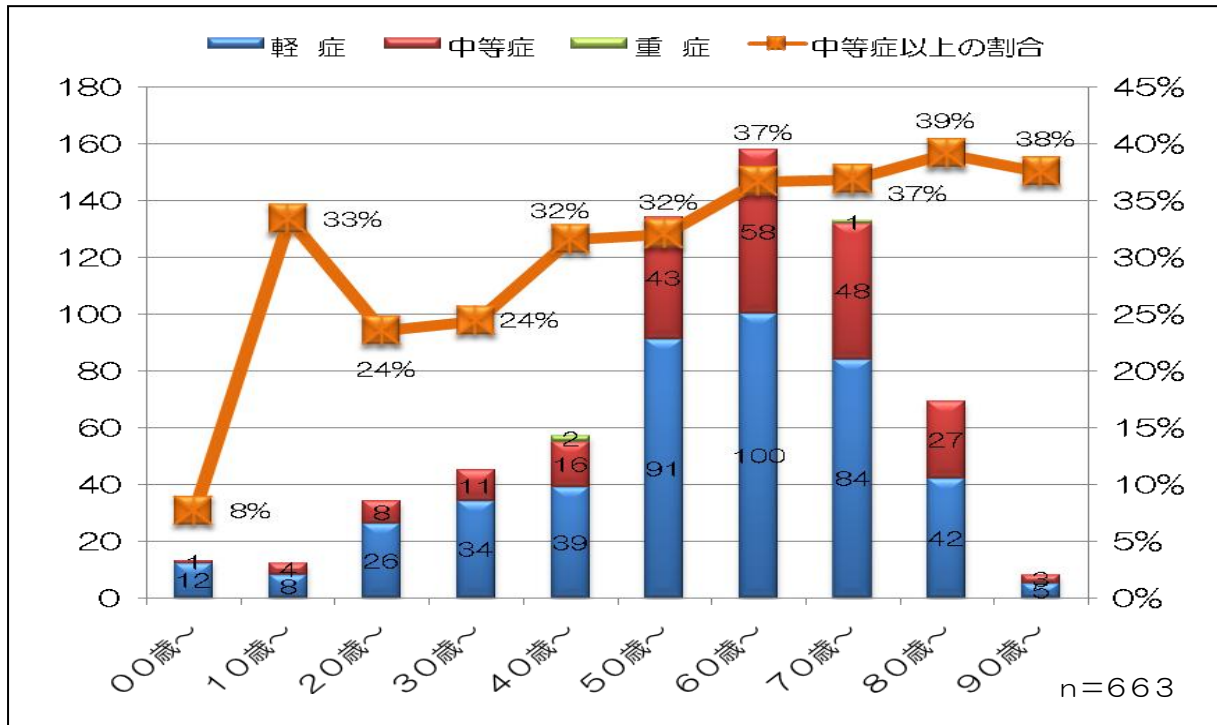


図3 年齢層別負傷者程度別の発生状況

### 4 場所別初診時程度別の発生状況

場所別に見ると、屋外等が最も多く発生しており、次に階段・屋根などの高所、屋外等（傾斜地）、屋内と続いている。

また、場所が、階段・屋根などの高所や傾斜地の場合は、入院を伴う中等症以上となる割合が高くなっている。（図4参照）

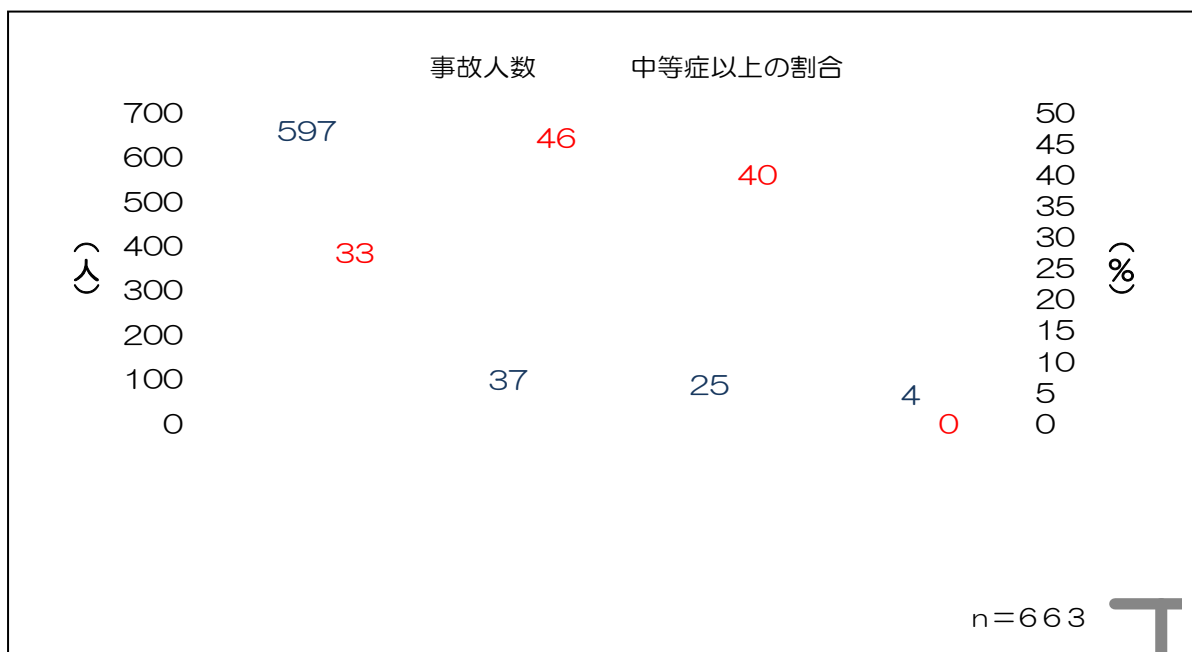


図4 場所別初診時程度別の発生状況

《凡例》

屋外等	道路上、自宅のベランダ、マンションの屋外廊下、屋外駐車場などで傾斜地を除いたもの
屋外等（傾斜地）	坂道、山道、スロープなど
階段・屋根などの高所	屋外階段、屋根など
屋内	店舗内、マンションエントランス内など

5 事故発生時の行動等

事故発生時の行動を見ると、歩行中に最も多く発生しており、次に雪かきなどの作業中、自転車走行中と続いている。

運動競技中を除き、ほとんどの行動で約3割から5割が中等症以上となっている。  
（図5参照）

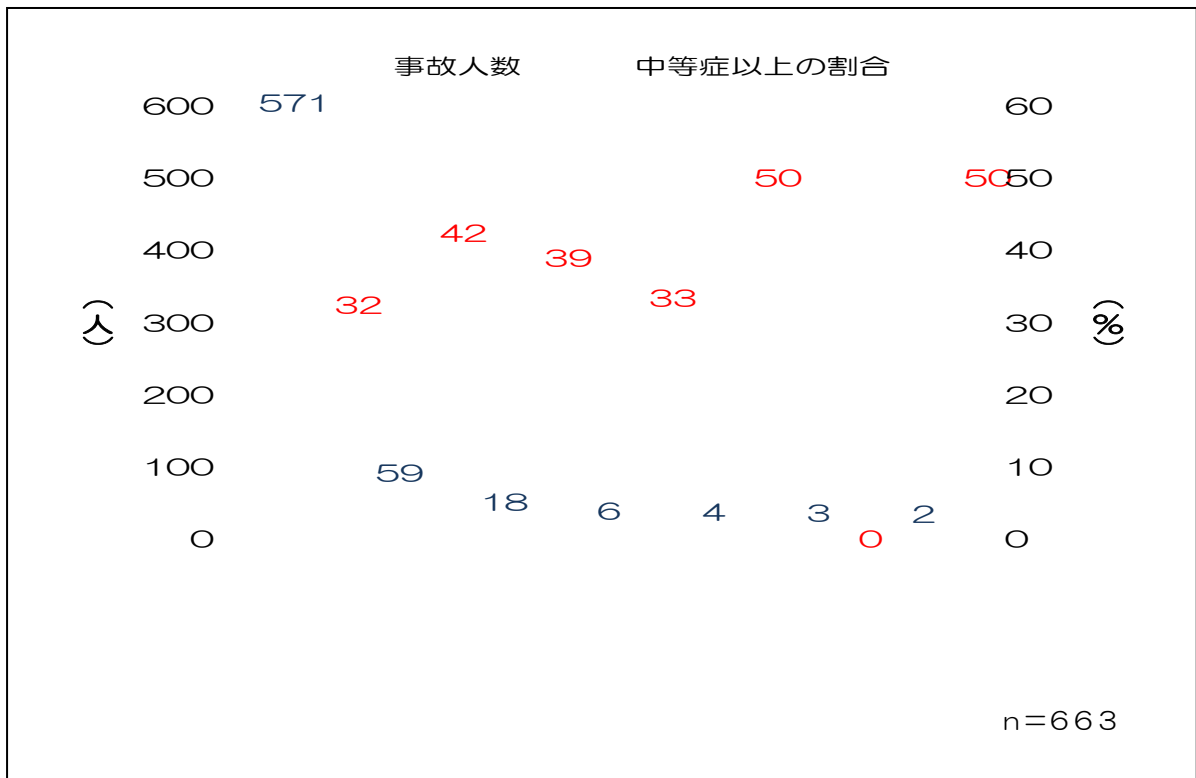


図5 事故発生時の行動別初診時程度別の発生状況

## 6 気象状況との相関関係

救急搬送人員が最も多く発生しており、かつ、過去5年間の月平均気温の最も低い平成18年の1月について、日ごとの最低気温・降雪と救急搬送人員との相関関係を分析してみた。

平成18年1月は、21日に降雪があり、22日は最低気温マイナス0.8度、23日は最低気温マイナス2.5度、24日は最低気温マイナス2.6度と冷え込んだため路面等が凍結して救急搬送人員が増加したと推測される。(図6参照)

※過去5年間の月平均気温及び日ごとの最低気温については、気象庁の観測データを参照した。(観測地点：練馬)

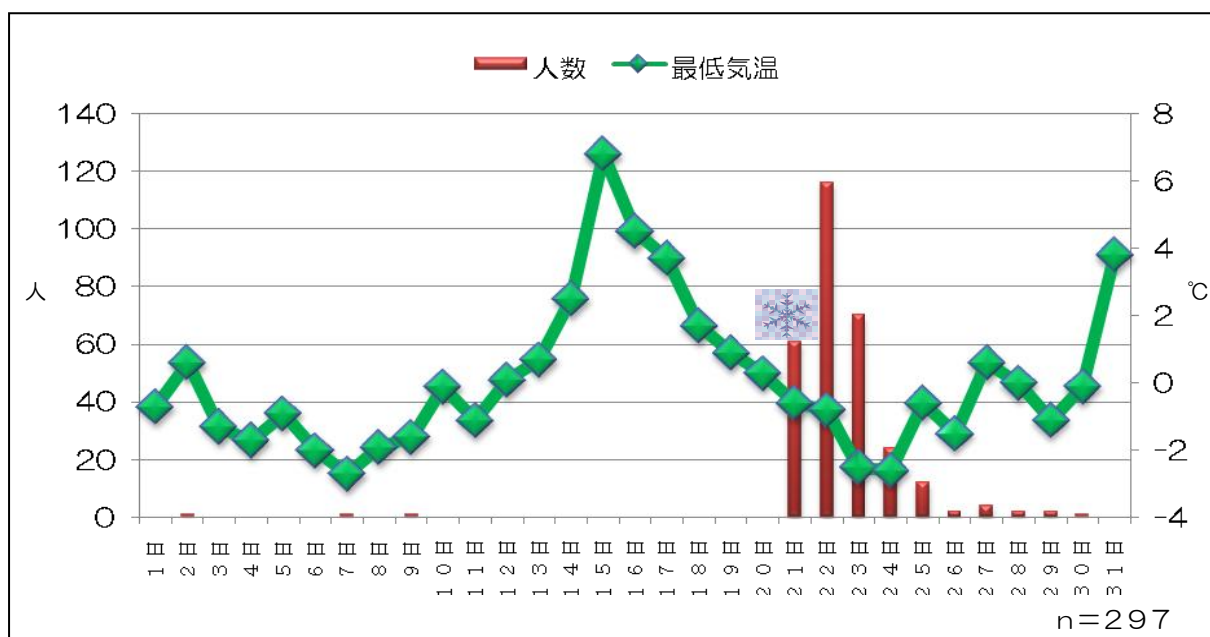


図6 気象状況との相関関係 (平成18年1月)

## 7 事件事例

- (1) 平成18年1月、44歳女性が自転車で歩道を走行していたところ、雪で滑り転倒し頭部を打撲したものの。(重症)
- (2) 平成18年1月、19歳女性が屋外階段をつかい大型スピーカーを運んでいたところ、階段に凍結した箇所があったため足を滑らせ転倒し、左肩を脱臼したものの。(中等症)
- (3) 平成20年2月、34歳男性が脚立に乗り店舗のひさしに積もった雪を降ろそうとしたところ、雪で脚立が滑ったためにバランスを崩し、約1.5mの高さから転落し受傷したものの。(中等症)
- (4) 平成20年2月、63歳男性が凍結した歩道で足を滑らせたために、後方に倒れ後頭部を打撲し、意識を消失したものの。(中等症)
- (5) 平成21年2月、55歳女性が自宅2階のベランダへ出た際、ベランダに張っていた氷に足をとられ滑って転倒し、左股関節を受傷したものの。(中等症)

## 8 事故防止のポイント

- (1) 靴は滑りにくいものを選び、足元には十分に気を配り、ゆっくりと歩く。
- (2) 早朝から午前中にかけて事故が多く発生していることから、特に注意を払う。  
特に、通勤時間帯は急いでいる場合が多いので、通常よりも少し早目に自宅を出るなど余裕を持って出勤するよう心がける。
- (3) 降雪の日や、その後数日の間は、路面等が凍結している場合が多いことから、特に注意を払う。また、自転車等の利用は控えるようにする。
- (4) 階段や屋根などの高所で滑った場合は、特に入院を伴う中等症以上となる割合が高いので、階段に手すりがある場合には必ず利用し、屋根などの高所での作業は極力控える。

東京消防庁  
救急相談センター

#7119 [ 携帯電話・PHS ]  
[ プッシュ回線 ]

24時間年中無休

救急相談・医療機関案内

その他の電話やつながらない場合は  
03-3212-2323(23区)  
042-521-2323(多摩地区)

急な病気やケガをした場合に、「救急車を呼んだほうがいいのかな?」「今すぐ病院に行った方がいいのかな?」など迷った際の相談窓口として、「東京消防庁救急相談センター」を開設しています。